

創造から新天新地へー24章でたどる神の救済史

19章 「十字架ー救済計画の中心」

マタイの福音書 27章

はじめに

(1) これまでの流れ

- ①創造ー神は良い世界を造られた。
- ②墮落ー罪によって死が世界に入った。
- ③契約の歴史ー神は救済計画を進められた。
- ④メシア到来ー約束の救い主が来られた。
- ⑤御国の提示ーイエスは御国を宣言された。
- ⑥イスラエルの拒絶ー宗教指導者たちはメシアを退けた。
- ⑦新しい契約ー過越の成就である。

(2) マタ 27章の意味

- ①十字架は偶然の悲劇ではない。
- ②それは、神の救済計画の中心である。
- ③旧約聖書はこの出来事を指し示してきた。

*イザ 53、詩 22 など

命題：十字架は敗北ではなく、勝利である。

この箇所を 3 区分して学ぶとそれが分かる。

I. 人間の罪が現れた裁判 (1~26 節)

1. イエス、ピラトに引き渡される (1~2 節)

- (1) 宗教裁判では有罪が宣告された。
 - ①しかし、サンヘドリンには死刑を執行する権利が与えられていなかった。
- (2) イエスは朝早く、ローマ総督ピラトへ送致された。
 - ①ローマの法廷で政治裁判が行われる。
 - ②訴因は冒とく罪から反逆罪に変更された。

2. 裏切り者の悲劇 (3~10 節)

- (1) ユダの後悔と自殺
 - ①銀貨 30 枚を返す。
 - ②「私は罪を犯した」と告白する。
 - ③首をつる

(2) 血の代価の畑

- ① 神殿の資金にできない。
- ② この金で陶器師の畑を購入する。
- ③ エレミヤ書の預言の成就(9~10節)

Mat 27:9 そのとき、預言者エレミヤを通して語られたことが成就した。「彼らは銀貨三十枚を取った。イスラエルの子らに値積もりされた人の価である。

Mat 27:10 主が私に命じられたように、彼らはその金を払って陶器師の畑を買い取った。」

(3) 教訓

- ① 悔恨(remorse)と悔い改め(repentance)の違い
- ② ユダは悔い改めの機会を逃した。

3. ピラトの裁判(11~26節)

(1) ピラトの尋問(11~14節)

- ① 「あなたはユダヤ人の王なのか」
- ② イエスは沈黙された。
- ③ ピラトは非常に驚いた。

(2) 群衆の選択(15~23節)

- ① 「おまえたちはだれを釈放してほしいのか。バラバ・イエスか、それともキリストと呼ばれているイエスか。」
- ② 「十字架につけろ」

(3) ピラトの責任回避(24~26節)

- ① 手を洗う行為

Mat 27:24 ピラトは、語ることが何の役にも立たず、かえって暴動になりそうなを見て、水を取り、群衆の目の前で手を洗って言った。「この人の血について私には責任がない。おまえたちで始末するがよい。」

- ② 群衆のことば

Mat 27:25 すると、民はみな答えた。「その人の血は私たちや私たちの子どもらの上に。」

- ③ このことばは、紀元70年に成就した。

II. 王であるキリストの苦難(27~44節)

1. 兵士たちの嘲弄(27~31節)

(1) 総督官邸での嘲り

- ①紫の衣
- ②いばらの冠

(2) 偽りの礼拝

- ①「ユダヤ人の王、万歳」

(3) 十字架へ

Mat 27:31 こうしてイエスをからかってから、マントを脱がせて元の衣を着せ、十字架につけるために連れ出した。

2. ゴルゴタへの道 (32~34 節)

- (1) クレネ人シモンが代わりに十字架を負う。

3. 十字架につけられる (35~38 節)

- (1) 衣のくじ引き

- (2) 罪状書き

Mat 27:37 彼らは、「これはユダヤ人の王イエスである」と書かれた罪状書きをイエスの頭の上に掲げた。

- (3) 二人の強盗

4. メシア拒否の極致：嘲笑 (39~44 節)

- (1) 通行人

Mat 27:39 通りすがりの人たちは、頭を振りながらイエスをののしった。

Mat 27:40 「神殿を壊して三日で建てる人よ、もしおまえが神の子なら自分を救ってみろ。そして十字架から降りて来い。」

- (2) 宗教指導者

Mat 27:41 同じように祭司長たちも、律法学者たち、長老たちと一緒にイエスを嘲って言った。

Mat 27:42 「他人は救ったが、自分は救えない。彼はイスラエルの王だ。今、十字架から降りてもらおう。そうすれば信じよう。

Mat 27:43 彼は神に拠り頼んでいる。神のお気に入りなら、今、救い出してもらえ。『わたしは神の子だ』と言っているのだから。」

(3) 強盗

Mat 27:44 イエスと一緒に十字架につけられた強盗たちも、同じようにイエスをののしった。

III. 救いを完成した十字架 (45～66節)

1. イエスの死 (45～50節)

(1) 全地の暗闇

(2) 「エリ、エリ、レマ、サバクタニ」

2. 十字架の超自然的しるし (51～54節)

(1) 神殿の幕が裂ける

①贖罪の完成

②神殿制度の終焉

(2) 地震

(3) 聖徒の復活

(4) 百人隊長の告白

①異邦人の救い

3. 女性の弟子たち (55～56節)

4. ヨセフによる埋葬 (57～61節)

5. 墓の封印と警備 (62～66節)

今日の信者への適用

1. 十字架は、罪の深刻さを暴き出す。

(1) この章には、さまざまな罪人が登場する。

- ・ 宗教指導者
- ・ 裏切り者ユダ
- ・ 群衆
- ・ ピラト

- ・ローマ兵
- ・通行人
- ・強盗

- (2) 驚くべきことに、すべての人がイエスを拒絶した。
- (3) つまり、十字架は特定の人々の罪ではなく、全人類の罪の結果である。
- (4) 「彼らがイエスを十字架につけた」ではなく、「私の罪がイエスを十字架につけた」と言うべきである。

2. 十字架は敗北ではなく勝利である。

- (1) 人間の目には、十字架は完全な敗北のように見えた。
 - ・弟子たちは逃げた
 - ・群衆は嘲笑した
 - ・メシアは処刑された
- (2) 神の視点から見ると、十字架は救済計画の中心的勝利であった。
- (3) 神殿の幕が裂けたことは、その象徴である。
- (4) これは、神と人との隔てが取り除かれたことを意味する。

The Full Assurance of Faith

Heb 10:19 こういうわけで、兄弟たち。私たちはイエスの血によって大胆に聖所に入ることができます。

Heb 10:20 イエスはご自分の肉体という垂れ幕を通して、私たちのために、この新しい生ける道を開いてくださいました。

3. 十字架は希望の源である。

- (1) 百人隊長は、「この方は本当に神の子であった。」と告白した。
- (2) これは福音が全世界に広がることを示すしるしである。
- (3) 十字架はイスラエルの歴史の終わりではなく、世界救済の始まりである。
- (4) マタ27章は、人間の最大の罪と神の最大の愛が会う場所である。

次回はヨハ20章